

## 落射型蛍光顕微鏡

設置場所:情報工学部 研究棟西7階 担当者: 引間知広

### 分析できること

固体試料や生体内での目的細胞の蛍光像および通常画像、微分干渉像を撮ることができる。最大7色の励起光を搭載できるLED光源 Colibri 7 (ZEISS 社) を用いているため、測定波長の切り替えが速く、細胞へのダメージが少ない。

### 分析原理

狭帯域特性に優れるLEDによる励起波長を試料に照射する事により、発生した蛍光波長を検出する。従来の白色光源と蛍光フィルタを用いる場合に比べ、IR や UV 領域における漏れを押さえる事ができるため、サンプルの生存率を高めるだけでなく、蛍光の褪色も押さえる事ができる。

### 分析試料について

所有機器で使用できる励起波長は、385nm、475nm、555nm、そして630nmの4波長となっている。複数波長による同時観察が可能である。

### 必要なこと、注意点

通常の生物試料。オペレーターが居ないため、蛍光顕微鏡の使用経験を有するか、装置責任者の協力が得られることが必要である。

